



九州作曲家協会からの反戦声明

九州作曲家協会は、現在ウクライナ・ロシア両国間で繰り広げられている戦争状態に強い危惧を抱いています。ここに協会として、いかなる戦争状態にも反対する意思を表明いたします。

本協会は約40年前、日本国の九州・沖縄にゆかりのある作曲家たちを中心に組織され、作曲活動を通して九州・沖縄内外の音楽文化に貢献することを目的として活動しています。

平和な生活の中での人々の豊かな創造性がいかに尊いものであるか、音楽活動を通して我々は痛感しています。戦争は人々の生活のすべてを奪う、人間として最も愚かな行為です。

現在繰り広げられている戦争状態が一刻も早く終息し、世界中のすべての人々が平和な暮らしを取り戻すことを強く願っています。

2022年3月5日

九州作曲家協会一同

代表（会長）吉田峰明

Anti-war statement from the Kyushu Composers Association

The Kyushu Composers Association is deeply concerned the war between Ukraine and Russia in present.

We hereby expresses our opposition to any state of war.

About 40 years ago, this association was organized around composers with connections to Kyushu and Okinawa in Japan.

We are working for the purpose of contributing to music culture inside and outside Kyushu and Okinawa through music composition activities.

We believe that the rich creativity of people in a peaceful life is precious. Through our musical activities, we are keenly aware of this.

War is the most foolish act of human beings, taking away all of people's lives.

We hope that the current state of war will end as soon as possible.

We strongly hope that all people around the world will return to a peaceful life.

March 5, 2022

All members of the Kyushu Composers Association

Representative (Chairman) Mineaki Yoshida

『地域社会における創作活動とはいかにあるべきか』

司会：吉田峰明

参加者：吉田、石田、金井、嘉村、久保、熊本、齊藤、中島、中園、原田、吉岡、吉田、米倉(五十音順・敬称略)

本協会は標記タイトルを理念として発足し、40年以上にわたって活動してまいりました。この間、時代は変遷し、ここに来て新型コロナウイルスという新たな試練を迎えています。しかし、その副産物として「オンライン」という、離れていても意見のやりとりができる技術を得ることができました。そこで、この技術を用いて、ここであらためてこの理念について、会員同士で自由に考えを述べ合う機会を持ってみましたので、それを紹介いたします。参加者は、討論会に先立って開かれた協会総会にオンライン出席したメンバーです。

(以下、敬称略)

吉田：西洋音楽だけがクラシック音楽ではない。新たな創作が求められている。例えば長崎県の五島・小値賀に音楽祭を営んでいる地域がある。他にも地域で音楽事業を展開しているところがあるため、作曲家協会として一緒にやっていきたいと思っている。

米倉：本協会の会員は九州各地に在住しているため、色々な地方・地域の民謡や音楽みたいなものの中から、あまり「YouTube」で上がらないようなものを、各自スマートフォンなどを用いて撮影し、「zoom」で共有できれば良いと思っている。



熊本：鹿児島や大分など、各県ごとに伝承や物語がある。昨今、久保先生が取り上げられていた、様々な鹿児島の素材は、全く知らなかったため、興味をもった。可能であれば、県ごとのまとめ(支部のような形)でディスカッションをしたり、創作の手がかりを考えたりするなど、小さな会が開けてくれば、活性するのかもしれない。福岡は実行できるのではないかと考えている。



吉岡：大分県では民謡を活用した取り組みをしている。「和楽器アンサンブル『息吹』」ということで、できるだけ毎年、大分県に根付いた民謡を題材にして、アレンジ・発表する演奏会を開くようにしている。その会の責任者が田村洋彦先生である。そろそろ大分県のみならず、九州県内の民謡に幅を広げようかという話も出ている。コラボレーションもできるかもしれないと思う。

安川：例えば各県で民謡を1曲出す。みんなでアレンジをしてはどうか。アレンジ作品を1つのコンセプトとして演奏していただく。役所と協働した活動ができると思う。

久保：地域の民謡を使うことは大事なことだと思う。自分が入会した時のことを考えると、地域に特化したこと、素材を使うこと、地域の演奏家や教育機関と協力して、「現代音楽とはこのようなものである」ということを一緒に聴く活動や、アウトリーチということで、地域にある演奏家・音楽家と協働しながら、クラシック音楽だけでなく、新しいものや伝統的なものをみんなで作っていかうという思いが強かった。現代の時代において、どのようにするか、オンラインなどを活用しながら、何か特徴のある取り組みができれば良いと思っている。

嘉村：アウトリーチの活動に興味をもっている。昨今は中学校などで民謡に触れる教材もある。私たちが住んでいる地域やその周りの地域の題材を使って、指導と一緒に活動をすることで、子供たちが自分の住んでいる地域に対して愛着が生まれると思うし、本協会ならではの企画ができるのではと思う。

吉田：教育の場や、子供たちに対する企画、特に年齢的に低い子供たちにとっては、とても貴重な体験ができるということは、ずっと後に残っていくと思う。

米倉：地域を拡大解釈した考えではあるが、「TikTok（ティックトック）」の活用はどうか。「TikTok」は1本60秒の動画をアップロードして、瞬間的な表情を楽しむサービスである。これも一種の地域・ローカルだと思う。それに合わせた音楽を作ってみることも、1つの地域への考え方かと思い、違った新しいジェネレーションへの対応にも繋がるかと思う。



<米倉会員>

久保：地方公共団体や演奏団体と、いかに結びついていくかということが大事だと思う。鹿児島では県文化振興財団（みやまコンセール）が鹿児島の4人の作曲家にオーケストラ作品、さらに4人へ室内楽作品を委嘱したり、「南日本新聞社」が若い鹿児島出身の作曲家たちに委嘱したりなど、次々と仕掛けている。その結果、他のところも、このような活動が特殊なことではなく、当たり前なこと、大事なことということが根付いている。数年前に地元の弦楽オーケストラとフルートオーケストラも委嘱新作を初演した。今年も「南日本新聞社」の企画や、鹿児島ウインドアンサンブルや鹿児島交響楽団にて委嘱新作が上演される。このような活動が大事かと思う。



<石田会員>



<久保会員>

石田：鹿児島ではコンクールも作曲部門があるからか、現代音楽の作曲に対して、あまり抵抗がないように感じる。地域の方も連携しやすい分野として映ってきた感じがする。本協会もそのような垣根を柔らかくするような活動ができれば良いと思った。

熊本：鹿児島のような活動をするためには、子供たちへのワークショップは欠かせないと思う。ここ数年、子供たちに作曲を指導する活動を通して、いきなりメロディを書かせることは難しいと感じている。そのための方法論などの研究もなされるべきだろうと思う。書いてみる、トライしてみるなど、敷居の低い状態でのワークショップやコンクールを定期的に行うことによって、新しいニュージェネレーションを広げていくことが大切かと思う。鹿児島とは反対で、全国的には作曲の活動が減少傾向にある。協会として教育的な目的の企画を実施することは大変意義のあるものではないかと思う。

吉田：このような意見交換は初めての試みであったが、楽しい会となった。頂いたご意見から、地域との演奏家との連携や教育のことなどを、会の運営に役立てていきたいと思う。今後もこのような話し合いの場がもてればと思っている。

<会員の活動の紹介>

吉岡 愛梨

2021年10月1日 宮崎県宮崎市清武町から、故 衛藤恵子先生の大切なグランドピアノを、大分県佐伯市船頭町にある、ブルートロワに迎えました。

ブルートロワはビルの1階にある広い部屋で、普段は私もレッスン会場として使用させて頂いていますが、地域のイベントの際には市内で活動している雑貨屋さんやパン屋さんなどが出店するために開放される空間でもあります。

そのブルートロワで、グランドピアノのお披露目も兼ねたイベント「I love doing～二人の愛のシンフォニー～」を2022年3月20日・21日に開催しました。

今回のイベントでは、詩のソムリエ 渡邊めぐみさんからご紹介いただいた「春を題材にした詩」の中から、河合さんと私で5篇選び、その印象を曲と絵で表現したものを発表するというものでした。



【豚ノ詩 八木重吉ノ絵 河合愛】

当日は絵を中心に置き、河合さんの朗読、そして私のピアノ演奏をお楽しみ頂いた他、その場で選んだ詩をそのまま私と河合さんの2人で朗読。ご来場いただいていた方々にはハンドベルをお配りして、その場で音と絵を作り上げていく、即興演奏とライブペインティングも行いました。



【潮音(しおね)ノ詩 島崎藤村ノ絵 河合愛】

通常の演奏会とは異なり、終わりも始まりもなく、プログラムが終わった後は、お越し下さった方々からのご要望に応える形で演奏をしたり、絵を描いたり、ゆったりとした時間が流れる空間を作ることが出来たのではないかと考えています。

当日は、CD付ブックレットと楽譜も自主制作して販売したところ、絵や詩についてはもちろん、詩人の紹介などを載せたこともあってか、楽譜を読めない方にも、手に取って頂く事が出来ました。

その他にも現在、「BIG UP!」という音楽配信代行を活用して、音源のみもリリースしています。有料プランもありますが、無料で登録・配信を委託することが出来る代わりに還元率が販売価格のストリーミング70%、ダウンロード50%となるプランがあり、手軽に自分の作品を広めることが出来るので、とても便利な機能です。

今後、ブルートロワから衛藤先生のピアノと共に、地域に密着した芸術活動を行いながら、如何にして周知していくべきかを模索したいと思っています。

協会主催事業のご案内～以下を予定しています～
第40回九州現代音楽祭
2022年9月24日(土)16:00開演
宮崎市民文化ホール・イベントホール

§ 賛助会員募集中 §

九州作曲家協会では会の趣旨に賛同し、所定の年会費を納める方（法人もしくは個人）を賛助会員として募集しています。年会費は法人会員一口10,000円、個人会員3,000円です。会員になると本会主催事業へのご招待、機関誌「ジャーナル」の受け取り、法人会員については本会主催事業プログラムに法人名掲載などの特典があります。詳しくは事務局にお問い合わせください。

<九州作曲家協会> <http://kcaj.net/> (「Journal」バックナンバーがPDFで掲載されています)
〒876-0802 大分県佐伯市日の出町9-9 Tel.070-8538-2946 e-mail: kyusyucomposersassociation@gmail.com